

国際農業工学レポート

1. 建設コンサルタントの役割

建設コンサルタントは、行政などから事業の発注を受け、企画立案から調査計画、設計、工事、維持管理まで行う。具体的には行政が決定した事業の評価検討を行い、それに基づいて調査計画をして設計をし、ゼネコンと協力して施工管理や維持点検を行っている。つまり、建設コンサルタントは公共事業を通じて社会貢献をする役割を担っているのである。

また、近年の社会背景の変化により、以下のような役割がより重要になってきている。一つ目は、インフラの運営や維持管理をする役割である。これは従来から担っている役割であるが、近年少子高齢化が進展し、財政制約が厳しくなる中で、インフラの新設ではなく、効果的で効率的な都市・地方の活性化や既存施設の運営・維持管理がより求められるようになってきたのである。二つ目は、国土強靱化に対応する役割である。これは一つ目と通じることでもあるが、東日本大震災を始めとする自然災害の発生や、高度経済成長期に建設された施設の老朽化により、耐震性の向上が求められている。三つ目は、社会ニーズの多様化・高度化に対応する役割である。近年環境問題の深刻化や量的な充足により、ライフスタイルや価値観が多様化し、生活の質の向上に対するニーズが高まっている。そうした現状への対応も求められている。四つ目は、国際化に対応し、世界に貢献する役割である。

2. 印象に残ったキーワード

この講義を通して、農業土木コンサルタントというキーワードが印象に残った。農業土木コンサルタントは主に農業水利事業、農地防災事業、農地整備事業を通して農業農村整備事業を行う。農業のことを考えるとき、作物そのものや土壌、政策などを通じたアプローチに目を向けやすい。しかし、それだけではなく、農業土木を通して農業を支えることも重要であるということに改めて気付かされた。また、農業農村整備事業と聞いて想像するのが農業水利事業だけだったので、農地防災事業や農地整備事業も重要な事業であるということに驚いた。さらに、コンサルタント、と聞いて計画やアドバイスをする仕事を想像したが、実際には調査など実地に赴く仕事もしていると知り、興味が湧いた。東日本大震災などの災害に対応し、また塩害などの国際的な問題に対応し食糧を増産するためにも、今後農業土木コンサルタントの需要はますます上がっていくのではないかと感じた。